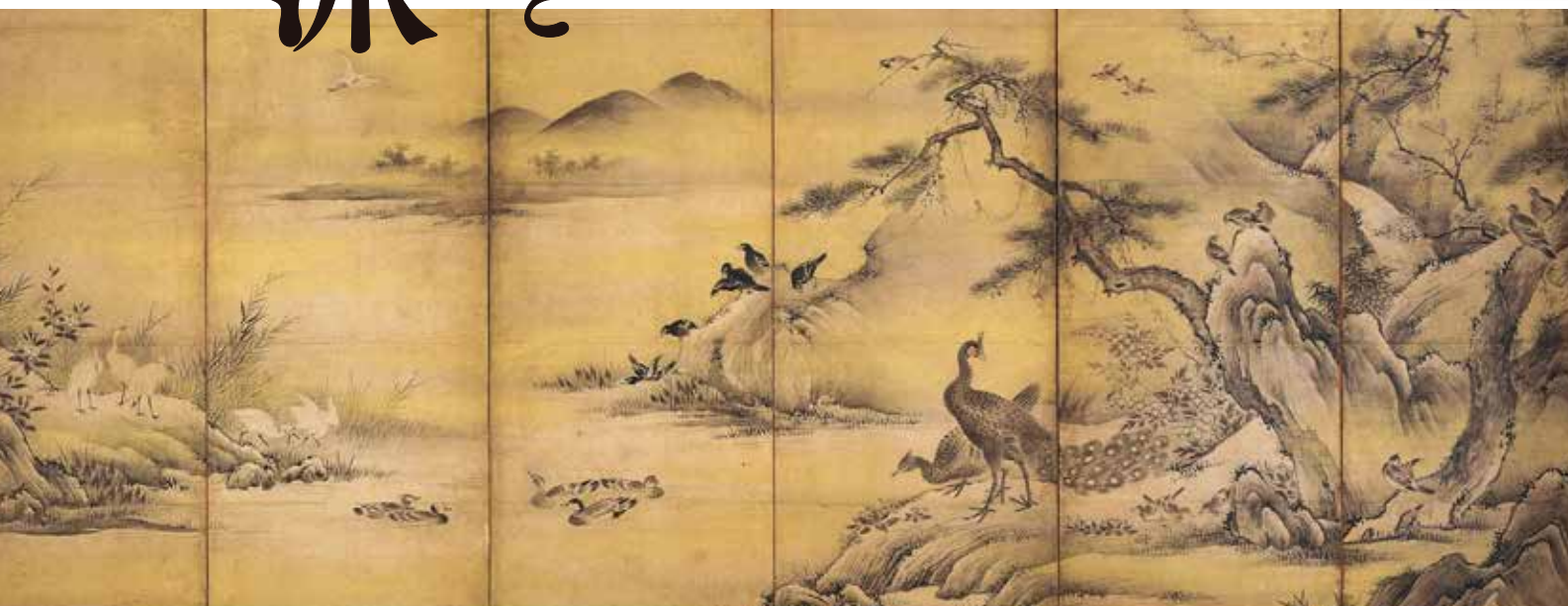


Kanō School and Tosa School  
The World of Official Painters

幕府・宮廷の絵師たち

企画展  
狩野派と  
土佐派



中世末にはじまり、約400年にわたって画壇に君臨した狩野派。流派の祖である狩野正信（1434?～1530）は、中国画が珍重された室町時代に漢画の絵師として頭角を現し、8代將軍・足利義政に仕えて流派の礎を築きました。一方、伝統的な絵画様式であるやまと絵の絵師集団で、南北朝時代以来の歴史と格式を誇った土佐派は、狩野正信と時を同じくして登場した土佐光信（1434?～1525）の活躍により栄華を極めました。

その後、狩野派の2代・元信による狩野派独自の漢画様式の確立と、同じ元信による漢画とやまと絵を融合した斬新な様式の創出、そして土佐派の当主の戦死などにより、中央画壇は狩野派が制することになります。しかし土佐派の命脈は途切れず、時の天皇の庇護により、江戸時代前期に宮廷の絵師として見事に復活を遂げました。日本を代表するこの二つの絵師集団は、いずれも幕府や宮廷といった、当時の権力者たちの後ろ盾を得て、その御用を務めることにより勢力を拡大し、画壇の頂点へと上り詰めていったのです。

この展覧会では、当館が所蔵する狩野派と土佐派の作品を中心に、室町～江戸時代に幕府や宮廷の御用を務めた絵師たちの作品をご覧いただきます。端正な室町水墨からはじまり、江戸時代の豪華な屏風や鮮やかな色彩のやまと絵に至る、御用絵師たちの多様な絵画世界をお楽しみください。

2021年2月25日(木)～3月31日(水)

日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM

<http://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館  
NEZU MUSEUM



## 室町幕府の御用絵師



りゅうかすいかんず しゅうぶん  
柳下垂竿図 伝 周文筆  
1幅 紙本墨画  
日本・室町時代 15世紀  
根津美術館蔵  
こぼやしあたる  
小林中氏寄贈

柳の下に舟を浮かべ、独り釣り竿を垂らして遙かな遠山を望む高士を描いた趣深い小品。伝承筆者の周文は相国寺の画僧で、朝鮮への派遣使節に参加するなど足利将軍家の御用を勤めた。

## 狩野派：画壇に君臨した絵師たち



かんぱくず かろうまさのぶ  
観瀑図 伝 狩野正信筆  
1幅 紙本墨画淡彩  
日本・室町時代 16世紀  
根津美術館蔵  
小林中氏寄贈

狩野派の祖・正信の印が捺される観瀑図。実際の制作は正信より下るものの、初期狩野派の系譜を引く山水画として貴重である。



しきかちょうずびようぶ かもうものぶ  
四季花鳥図屏風 伝 狩野元信筆  
6曲1双 紙本墨画淡彩  
日本・室町時代 16世紀  
根津美術館蔵

奥行き深い空間に、様々な花鳥を配した、狩野元信筆の伝承を持つ屏風。元信が確立した明快な画面構成と筆法は時の権力者に受け入れられ、狩野派による画壇の制覇をもたらした。



りょうていずびようぶ かもうたんゆう  
両帝図屏風 狩野探幽筆  
6曲1双 紙本金地着色  
日本・江戸時代 寛文元年(1661)  
根津美術館蔵

画壇のトップに君臨した狩野探幽が、中国古代の伝説的な二人の皇帝を描いた屏風。その絢爛たる画面は、まさに有力者の屋敷や城郭を飾るに相応しい豪華さを見せる。





## 土佐派：華麗な色彩のやまと絵師たち

らりょうおうず とさゆきひで  
羅陵王図 伝 土佐行秀筆  
1幅 絹本着色  
日本・室町時代 15世紀  
根津美術館蔵  
植村和堂氏寄贈



箱書に記される伝承筆者の土佐（藤原）行秀は、室町中期を代表するやまと絵の絵師の一人。小品ながらも細部まで描き込んだ優品で、中世に遡る希少な舞楽図である。

筆者の土佐光起は、伝統的なやまと絵に写生技法を取り入れた新様式を大成し、土佐派に85年ぶりに宮廷絵所預の職をもたらし中興の祖。描かれるのは『源氏物語』の著名な場面で、細密な描写と彩色は光起の画技の高さをものがる。



げんじものがたりあさがおず とさみつおき  
源氏物語朝顔図 土佐光起筆  
1幅 絹本着色  
日本・江戸時代 17世紀  
根津美術館蔵



かえるのそうしえまき とさみつおのぶ  
蛙草紙絵巻 伝 土佐光信筆  
1巻 紙本着色  
日本・室町時代 16世紀  
根津美術館蔵

嘘つきの男が長者の婿へと出世するお伽草子の絵巻。清明な彩色と軽快な描写は、水墨技法や山水画のモチーフを取り入れてやまと絵を刷新した土佐光信の画風を引き継いでいる。

## 展示室 5 へんげのものがたり—お伽草子二題—

—同時開催展—

室町時代のお伽草子絵巻2作品をとりあげ、その奇想天外な物語の筋を追いながら、素朴でなんとも味のある絵を鑑賞していただきます。



けんがくのそうしえまき  
賢学草紙絵巻  
2巻 紙本着色  
日本・室町時代 16世紀  
根津美術館蔵

みいでら けんがく  
三井寺の僧賢学に、修行の妨げになると捨てられた長者の娘が大蛇に変じ、鐘に隠れる賢覚を捕らえてともに日高川に沈むという物語。

\*もう1作品は、齢800年の狐が化けた絶世の美女の物語「玉藻前物語絵巻」です。

## 展示室 6 ひなまつ 雛祭りの茶

桃の節句とも呼ばれる3月3日は、女の子の健やかな成長を願う雛祭りの日。この華やかな年中行事にちなんだ茶道具約20件を取り合わせます。

赤楽茶碗 銘 ハッサイ  
らくどうにゆう  
伝 楽道入作  
1口 施釉陶器  
日本・江戸時代 17世紀  
根津美術館蔵



銘の「ハッサイ（発才）」とは利発な女の子のこと。丸みをもたせた胴部と、鮮やかに発色した赤色が、全体を明るいつるり気にする。

## 開催概要

展覧会名	企画展 <small>かのうは とさは</small> 「狩野派と土佐派—幕府・宮廷の絵師たち—」 <b>日時指定予約制</b> ご来館前に当館ホームページより日時指定入館券をご購入ください。 (根津倶楽部会員、招待はがきをお持ちで入館無料の方も予約が必要です。)
主催	根津美術館
開催期間	2021年2月25日 [木]～3月31日 [水]
開館時間	午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
休館日	毎週月曜日
入館料	ネット日時指定予約 一般 1300円(1100円) 学生 1000円(800円) 当日券(窓口販売) 一般 1400円(1200円) 学生 1100円(900円) ※本展覧会より、当日券料金を変更いたします。 ※当日券は、予定枚数の販売が終了している場合があります。 ※( )内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。
アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、 B4出口(階段とエスカレータ)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレータ)より 徒歩10分
住所	〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
お問合せ	Tel. 03-3400-2536(代表) website <a href="http://www.nezu-muse.or.jp">http://www.nezu-muse.or.jp</a>

### 広報制作物のメール配信のお知らせ

当館の広報制作物のメール配信を開始しました。従来の郵送から、メール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館広報課 ([press@nezu-muse.or.jp](mailto:press@nezu-muse.or.jp)) へどうぞお知らせください。なお、郵送とメール配信の併用はご容赦ください。

## 次回展

開館80周年記念特別展

かきつばたずびょうぶ  
「国宝 燕子花図屏風—色彩の誘惑—」 2021年4月17日(土)～5月16日(日)

「燕子花図屏風」を構成する3つの色、青と緑と金。その歴史的な意味や魅力を、青緑山水や金屏風の伝統、同時代のやきものに探ります。

国宝 燕子花図屏風 尾形光琳筆  
日本・江戸時代 18世紀  
根津美術館蔵



同時開催：  
展示室5「きんしゅうりょうら上代の錦繍綾羅」  
展示室6「燕子花図屏風の茶会—昭和12年5月の取り合わせ—」

\*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2020.12.)